

令和5年度 地域福祉活動支援事業 ホームページ用報告書

神奈川県社協ホームページに掲載しますので、助成事業の概要を簡潔に記入してください。

※必要事項を記入または☑ 1ページ以内に収まるよう作成

団体名	特定非営利活動法人 全国要約筆記問題研究会神奈川支部		
団体の属性	<input type="checkbox"/> セルフヘルプグループ・当事者等		<input checked="" type="checkbox"/> ボランティアグループ等
	<input type="checkbox"/> 市町村社協やそれを構成員とする実行委員会等		
助成区分	<input checked="" type="checkbox"/> 一般助成	<input type="checkbox"/> 協働モデル助成	協働モデル助成 国会提示テーマ
助成事業名	イベント開催事業①講演会「障害差別の認識と差別解消について～聞こえに関わる障害を中心に～」 ②学習会「手書きノートテイク～スキルアップ講座～」		
事業の目的	講演会：差別を生む構造を知り、なくすための方策を考える。 学習会：ノートテイクでの悩みの解決策を学ぶ。		
事業概要	<p>●「障害差別の認識と差別解消について～聞こえに関わる障害を中心に～」の講演会</p> <p>令和5年12月10日午後から、講師に栗田季佳(ときか)先生(三重大学教育学部特別支援教育学科准教授)を迎え、Zoomにて講演いただきました。Zoomと会場(横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」研修室)のハイブリッドで、県内の要約筆記者や中途失聴・難聴者、ろう者、情提スタッフ、難聴学生の情報保障コーディネーターなど、幅広い参加が得られました。</p> <p>内容：「差別」は様々な形で存在する。問題を個人化せず、表に出して議論すること、本人が言えないなら周りが代弁することなど、周囲の存在は大切である。「差別」をしないことを目指すより、面倒だからと回避することなく「差別」と向き合うこと。差別のない共生より、せめぎあう共生をと講師は言われました。</p> <p>要約筆記者は利用者の方々と接するにあたり、単に話を文字にして伝えるだけでなく、社会参加の支援を念頭に置いて活動をしています。参加者は、この講演で得たことを活かしつつ、活動に取り組んでいかれることと思います。</p> <p>●「手書きノートテイク ～スキルアップ講座～」の学習会</p> <p>令和6年2月12日午後より、講師に長尾康子氏(全国要約筆記問題研究会認定講師)を迎え、横浜市西区福祉保健活動拠点「フクシア」研修室にて対面で開催しました。参加者は24名、殆どが県内の要約筆記者派遣事業者に現在登録している方でした。</p> <p>内容：グループワークで出された「きれいに書けない、要約と同時性のバランス、仕事の範囲」への悩みについて、通訳現場の動画や講師がその場で書いた手本、参加者への添削指導など、具体的に今後に生かせる内容でした。最後のグループでの事例研修では、講師から、現場はそれぞれ状況が違うので臨機応変な対応が必要になる、なぜそうしたのかを説明ができることが大事であり、そこで支えになるのが倫理綱領であるとのアドバイスがありました。</p>		
成果や課題	<p>講演会：講師の分かり易い説明で差別について考え直す機会となり、聞こえづらい方の社会参加を後押しする意識付けにもなりました。要約筆記と手話通訳が付きましましたので、多くの中途失聴・難聴者やろう者に参加していただきました。</p> <p>学習会：参加者からは現場ですぐ実践できる有意義な学びの場となりました、グループワークで県内の他地域の要約筆記者と交流でき情報も得られて良かったですとの感想が寄せられました。対面の実技研修は具体的でわかりやすい反面、参加者を制限する必要がありました。</p>		
今後の展望	<p>今後も中途失聴・難聴者や支援者にも関心が高く、かつ社会の要請に応じたテーマでの講演会を企画したいと考えます。また、学習会では、認識精度が高まり利用者が増加している、音声認識システムの技術を習得し、実践に繋げたいと思います。</p>		
活動の様子が分かる画像 2枚程度添付	<p>講演会中の Zoom 画面から</p> <p>3つのマイクロアグレッション</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マイクロアサルト <ul style="list-style-type: none"> ・言葉や行為、表現によって攻撃や威嚇、劣位化する ・例)「ちゃんと聞いていなきゃだめだろう!」 ・マイクロインサルト <ul style="list-style-type: none"> ・ステレオタイプや無礼、無神経さを伝えるコミュニケーション ・例) 字幕なし邦画。「それぐらい聞こえてたら大丈夫」。手話をつかう者の前で口話のみで話す。声をかけたが、聴覚障害者とわかると「すみません」と去っていく。 ・マイクロインバリデーション <ul style="list-style-type: none"> ・感情や経験を無視や否定、軽視する。 ・例)「みんなできないことがある。」「手話はひとつ」/「口形つきの手話は手話じゃない。」 <p>学習会の会場の様子</p>		